

専門職のボランティアを派遣し、避難所で福祉的支援が必要な人へのケアを実施

【助成事業の概要】

避難所生活を送っている中で、高齢者や乳児を抱える母親など、**医療面や介護面での不安を抱える人も少なくありません。**

そうした方の健康上の悩みを伺うとともに、被災した県外の看護師、保健師、各種療法士等が被災地へ赴き、地域の医療機関と連携して健康相談等を定期的に行っています。



【助成事業の成果】

避難生活が続く中で、身体の不調や機能の低下に対し、専門職が対応し、**被災者の不安解消**と専門的な知見による的確な対応ができました。

また、**人手の足りない被災地の医療機関等**のニーズにも迅速に対応することができました。



【ここが工夫のポイント☆】

全国各地の専門職の**ネットワークを活用し、緊急対応を可能**にしたこと。

専門家や住民とともに、仮設住宅に暮らす子ども達の心のケアや学習支援を実施

【助成事業の概要】

震災や原発事故により、仮設住宅で暮らす子どもたちは、友人との別れや長期に及ぶ避難生活に計り知れないストレスを抱えています。

そうした**家庭の不安解消や虐待などを防止**するため、専門機関や住民の協力により、子どもや親たちの心のケアを目的とした**相談や遊び支援講座の企画、学習支援を通じた居場所づくり**に取り組みました。

【助成事業の成果】

社会資源に限りのある仮設住宅において専門機関との連携に加え、仮設自治会や社会福祉協議会、保護者会などの**地域の住民組織が主体**となって取り組んだことで、身近な大人と関わることによる子どもの安心につながったほか、**事業の継続的な担い手の輪**が大きくなりました。



【ここが工夫のポイント☆】

保護者や自治会など**仮設住宅に住む多くの人が地域の活動に関わるきっかけ**を作ったこと。

被災高齢者の自立した生活と孤立の防止を目的に、移送支援やサロンを実施

【助成事業の概要】

仮設住宅では地域リーダー等の復興公営住宅への転居等により、コミュニティ形成が難しい状況があります。

そのような仮設住宅において、住民の**孤立防止**を目的に、社会福祉協議会や町役場との連携による**買い物移送支援やサロン、体操教室**を実施し、仮設住民の**居場所づくり**や公共サービスでは支えきれない**個別ニーズの把握**に取り組みました。

【助成事業の成果】

仮設住民が気軽に集えるサロンや住民同士で外出する機会を提供することで、自然に会話が生まれるとともに介護予防の役割も果たしました。個別ニーズを丁寧に把握することで、これまでの**潜在的な課題を関係団体と共有**し、今後の支援のあり方を検討する機会をつくりました。



【ここが工夫のポイント☆】

仮設住民に役割をもって参加してもらったことでエンパワメントにつながったこと。

孤立しがちな県外へ避難する広域避難者のニーズにきめ細やかな相談支援を実現

【助成事業の概要】

東日本大震災による避難者は、現在も全国各地で避難生活をしており、**長引く避難生活**に、精神的な疲労や生活の困窮など生活上のさまざまな課題を抱えています。

避難者の抱える悩みごとや葛藤を伺いながら解決に結び付けることを目的に、相談室を設置し、**来所や電話による相談支援**を行うとともに、体操やストレッチ等により、自身のストレス発散を目的とした**セルフケア講座**を開催しました。



【助成事業の成果】

相談室では**避難者が抱える多くのさまざまな悩み**を聞き、必要に応じて個別支援や他の専門機関につないでいます。また、継続的な見守りが必要な対象者には、相談後も手紙やメールを送るなど、**継続的な関わりができる関係**が生まれています。

また、セルフケア講座は参加者にとって、息抜きの場となり、**心のケア**にもつながるものとなっています。



【ここが工夫のポイント☆】

孤立しがちな県外避難者への**丁寧なアプローチやフォロー**のために**手紙やメール**を利用したこと。